茨木市立大池小学校　全国学力・学習状況調査分析結果

令和４年１０月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

（領域ごと）

①言葉の特徴や使い方に関する事項	大変良好な結果であった
②我が国の言語文化に関する事項	良好な結果であった
③A話すこと・聞くこと	概ね良好な結果であった
④B書くこと	良好な結果であった
⑤C読むこと	大変良好な結果であった

（問題形式）

②　選択式	大変良好な結果であった
②短答式	大変良好な結果であった
③記述式	良好な結果であった

（無解答率）	概ね良好な結果であった

（その他）

・正答率の高く、無解答率の低い設問

話し言葉と書き言葉との違いを理解しているかどうかをみる設問

・正答率の低い設問

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる設問

分析

・全体的に正答率が高く、良好な結果であった。

・記述式問題の無解答率が低く、粘り強く取り組むことが定着していると考えられる。

・漢字を文の中で正しく使う問題において、正答率・無解答率ともに良好な結果であった。

・条件に合わせて記述する問題の正答率が低く課題が見られる。学習の中で自分の考えや授業のふりかえりを書く際に、「文字数」や「キーワード」など条件をふまえて書くという経験を積み重ねる必要がある。

○●算数●○

（領域ごと）

①A数と計算	良好な結果であった
②B図形	大変良好な結果であった
③C変化と関係	良好な結果であった
④Dデータの活用	良好な結果であった

（問題形式）

①選択式	良好な結果であった
②短答式	良好な結果であった
③記述式	大変良好な結果であった

（無解答率） 概ね良好な結果であった

（その他）

・正答率が高い設問

整数の乗法の計算をすることができるかどうかをみる設問

・正答率の低い設問

果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたとき、果汁の割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる設問

分析

・すべての学習指導要領の領域ごとおよび問題形式において、良好な結果であった。

・被乗数に空位のある整数の乗法の計算の設問、図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかどうかみる設問において特に良好な結果であった。

・記述式の問題においても大変良好な結果であった。日常の学習で「課題設定を整理して読み解く」、「自分の考えや理由を説明する」という答えを導く過程に着目した取り組みを行ってきたことが結果につながっている。

・割合を用いた設問の正答率が低いことから、授業では、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりする活動を意識して取り入れていく必要がある。

○●理科●○

（領域ごと）

①エネルギー	概ね良好な結果であった
②粒子	良好な結果であった
③生命	概ね良好な結果であった
④地球	良好な結果であった

（問題形式）

①選択式	良好な結果であった
②短答式	良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

（無解答率） 概ね良好な結果であった

（その他）
・正答率の高かった設問
問題解決に必要な観察の視点を基に、自分の考えをもつことができるかをみる設問
・正答率が低かった設問
日光は直進することを理解しているかをみる設問
・無回答率が低かった設問
実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えを持ち、その内容を記述できるかをみる設問

分析

・全体的に正答率が高く、良好な結果であった。

・「粒子」や「地球」を柱とする領域は、正答率が高く、良好な結果であった。

・自分の予想と実験結果を基に、自分の考えを持つことができるかをみる設問に対して、大変良好な結果であった。

・結果を見通して、問題を解決するための道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかをとう設問に対して大変良好な結果であった。

・記述式の設問に対して、無解答率が低いことから、多くの児童が意欲をもって取り組めていたといえる。その反面、無解答率が高い設問の中には、選択式の設問もいくつかあった。どの教科においても粘り強く取り組むよう引き続き指導していく。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

・正答率は、全体的に良好であり、国語、算数、理科すべてにおいて、ここ数年と比較しても向上している。
・無解答率についても良好である。特に国語においては、ここ数年減少傾向にある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

・学力低位層、エンパワー層ともに、概ね良好な結果であった。
・学力低位層は、経年比較すると減少傾向にある。
・学力高位層については、増加傾向にある。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

・低学年、中学年、高学年それぞれで国語科の研究授業に取り組み、研究テーマである「言語活動を通して、自分の思いや考えを適切に書く力の育成」について研究を深めていく。

・研究授業、研修を通して講師先生からの指導助言や各学年の取り組みについて共通理解を図る。

・朝学習やモジュール学習では、国語科の漢字学習やことばの使い方などの内容を週に二回程度、算数科の四則計算など基礎的な内容の学習を週に一回程度取り組む。

・各学年の学習のきまりを系統立て、継続し、１～６年生までの学習環境を統一することで、学習に向かう基本姿勢の定着を図る。

・発表の仕方、話の聞き方を教室掲示し、安心して話せる学習環境をつくる。

・ノートのきまりを精査し、児童が学習したことを振り返ってわかるようなノートづくりをめざす。

・児童が自分の考えを書けるよう、導入の工夫や考える時間の確保ができるような授業づくりを研究、実践していく。

・学習の最後に振り返りとしてその時間で学んだことなどを自分なりに書く取組みを継続して行う。また、児童が振り返りを考えやすいように「今日の学習でわかったこと」・「友だちの考えでよかったこと」・「今日の学習でおもしろかったこと、もっとやってみたいこと」の３つの視点を提示してすすめる。

・週に一回、朝の読書タイムの時間を設ける。

・月に一回、図書館ボランティアによる読み聞かせを行う。

・家庭での自主的な学習の習慣をつけるため、高学年は自主学習に取り組む。